ドバイ日本人学校　No. 19

学校だより　熱　砂

＜発　行＞
令和４年２月４日
発行責任者：
校長　和田　政男

ようやく落ち着きを見せ始めたコロナ感染

１月は，本校でも新型コロナウィルス感染症にり患する児童・生徒が相次ぎ，学級閉鎖や学校閉鎖を繰り返しました。周辺の学校においても同様であり，KHDA からは集会の禁止，課外活動の禁止，校外学習の禁止，体育の禁止の指示があり，楽しみにしていた運動会を中止せざるを得ませんでした。2 月に入り，上記，体育の禁止等の制限は解け，り患者数も落ち着いておりますが，まだまだ気を抜けない状況が継続しております。

「学びを止めない」ことを念頭に，全面オンライン授業，対面とオンラインを併用するハイブリッド授業を適宜活用しながら継続しておりますが，子ども達にとっても先生方にとっても，我慢の日々が続いております。

中学部では定期考査が 2/14 に予定されているなど，学校は学習のまとめの時期であり，卒業式や修了式に向かう時期です。昨年，一昨年と在校生や保護者，来賓がオンラインで参加するなど，縮小した形での卒業式にならざるを得ませんでした。今年度はコロナパンデミック前の卒業式を計画しつつも，その時の感染状況を考慮し，当局の許可を得ながらの開催となります。そのため，ご案内も遅くなったり，急遽の変更を余儀なくされることもあると思います。ご承知おきくださいますようお願いいたします。

学校評価アンケート，集計結果まとまる
アンケートへのご協力ありがとうございました。

11 月に実施した「学校評価アンケート」の結果がまとまりました（別紙資料）。昨年度とほぼ同様のアンケートです。

昨年は，１学期間全面オンライン授業，２学期以降学校が再開したものの学校生活はとても制約の大きいものでした。そんな中で日本人学校は様々な工夫をして「学びを止めない」努力をしているということを大変肯定的に捉えていただいたアンケート結果でした。

今年度は，80％程度平時の学校生活が戻ってきましたが，本校の良さのひとつであった縦割り班による清掃活動や課外活動が出来ない，体育の種目が制限される，学年をまたいだ活動や校外活動が制限される等々，まだまだ本来の学校生活に戻り切れていないことで，十分な満足感が得られていないことをうかがわせるアンケート結果であると考えています。

保護者の皆様からいただいたコメントの主なものについて，以下ご紹介し，学校からのコメントを記載いたしました。

＜アンケートについて＞

・　学校の様子を知ることができるのが参観日だけなので、答えにくい質問もあった。

・　回答については、判断する材料がないためです。マイナスな意見ではありません。

→　経年変化を見るために，数年間は同じアンケート用紙を使っており，現在のアンケートは昨年度作成したものです。次回の改訂の際に質問項目を見直してまいります。

＜端末の使い方＞

・　色々な事に興味があり、ネットで色々調べることが出来る事はとても便利だと思いますが、友達とのチャット、ビデオ通話に、どこまで親が首を突っ込んで良いものかと時々悩む時があります。

・　タブレットを使う授業が増えました。あっという間に操作能力を身につけて、上達ぶりにも驚くものがありますが、依存性があるのか、必要以上にタブレットを触っているように見受けられる時があります。例えば、漢字が思い出せない時や、言葉の意味が分からない時に、辞書ではなく、タブレットで漢字変換や意味を調べています。宿題の内容をチャットで教え合っている様子もたまに見ます。

端末が便利なのは分かるのですが、端末がないと困る、という状態では困るな、と思う時があります。

→　まさに現代的な新しい課題であると思います。「不易と流行」という言葉もありましたが，現代的な潮流を取り入れながらも変わらずに大切にしなければならないこともある。学校としても明快な回答を持ち合わせていない課題であり，共に考えていかなければならない課題であると思います。

＜学習習慣・読書習慣＞

・　元々、本は読む方でしたが、中学部は勉強に行事に忙しく、家庭で本を読む機会が減っているように見えます

・　もう少し宿題が多くても良いように思っています。

→　小学校低学年から中学年にかけては，望ましい学習習慣を作ることができるように意識的に宿題を出し，自発的な学習を促す高学年から中学部にかけては，宿題ではなく自学に取り組めるように指導するということが学校における一般的な考え方です。いただいたご意見を職員と共有し，望ましい学習習慣，読書習慣の在り方について引き続き考えてまいります。

（以下，次号に続く）